

第 77 期

中間事業報告

平成 19 年 4 月 1 日から
平成 19 年 9 月 30 日まで

株主の皆様へ

株主の皆様にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、当社第77期上半期（平成19年4月1日から平成19年9月30日まで）の中間決算を終了いたしましたので、ここにその概況をご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成19年12月

代表取締役社長 渡 邊 忠 泰

事業の概況

(平成19年4月1日から
平成19年9月30日まで)

1. 当中間期の業績の概況

(1) 事業の経過及び成果

当上半期におけるわが国経済は、輸出や生産の回復を背景に企業業績が好調に推移するなか、民間設備投資が増勢を続けるとともに、個人消費に改善の兆しが見られるなど、景気は総じて緩やかに拡大しております。

道路建設業界におきましては、官公庁事業の発注抑制が続くなか、引き続き民間設備投資が活発化しているものの、受注競争の激化などから低価格入札や受注単価下落が一段と著しくなり、厳しい事業環境にあります。

当社ではこのような状況下において、顧客第一・品質重視の経営姿勢を堅持し、工事やアスファルト合材、その他製品販売等の受注拡大の強化に努めました結果、受注高は、前年同期比14.9%増の177億2千4百万円と2年連続の前期比増となりましたが、売上高は、下期への繰越工事の増加などから97億6千7百万円と前年同期比6.7%減となりました。

利益につきましては、施工効率の改善やコスト削減などに取り組みました結果、経常損失が、7億5千2百万円（前年同期の経常損失10億9千3百万円）となり、中間純損失は、7億8千7百万円（前年同期の中間純損失14億4千1百万円）となりました。

(2) 部門別の事業の概況

工事部門

当中間期受注高は、公共工事予算規模の抑制が続くなか、民間工事の受注確保に積極的な営業活動を展開したことなどから、156億8千3百万円と前年同期に比べ16.0%増となりました。

完成工事高は、前年度繰越工事の当中間期完成計上の一部が繰り延べとなったことなどから、前年同期に比べ9.9%減の77億2千7百万円となりました。

完成工事総利益は、工事施工管理の改善などから採算性が向上するなど、前年同期1億1千9百万円に比べ4億2百万円と大幅に改善いたしました。

製品等販売部門

当中間期受注高、売上高は、官公庁工事発注量の減少に伴う販売量が低迷するなか、民間顧客開拓などにより前年同期に比べ7.3%増の20億4千万円となりました。

製品等売上総利益は、原油価格高騰などによる原価上昇から収益の悪化が避けられず、1百万円の損失（前年同期製品等売上総損失3千1百万円）となりました。

当中間期の部門別受注高、売上高及び繰越高

(単位：百万円)

部門別 \ 項目	前期繰越高	当中間期受注高	当中間期売上高	当中間期繰越高
工事部門	12,576	15,683	7,727	20,532
製品部門		2,040	2,040	
計	12,576	17,724	9,767	20,532

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

業績の推移

(単位：百万円)

期別 \ 項目	当中間期 自平成19年4月1日 至平成19年9月30日	前年中間期 自平成18年4月1日 至平成18年9月30日	前期 自平成18年4月1日 至平成19年3月31日
受注高	17,724	15,423	39,775
売上高	9,767	10,473	36,262
中間(当期)売上総利益	400	88	2,571

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

2. 当社が対処すべき課題

今後のわが国経済は、輸出や生産の増加とともに民間設備投資が引き続き拡大基調で推移するものと予測されますが、金融市場の混乱や原油価格高騰の動向などに加え、個人消費の伸び悩みも懸念されるなど、景気回復の持続にはこの先予断を許さないものがあります。

道路建設業界におきましては、今後更に受注競争の激化とともに低採算工事や受注単価の下落などに加え、原油価格の高騰などによる材料コストの上昇も懸念され、経営環境は好転の兆しが見られない状況が続くものと予想されます。

当社といたしましては、このような情勢のなか、2007年4月から持続的な収益の確保による経営基盤の強化を目指し、中期事業計画(2007年度から2009年度まで)をスタートさせております。事業規模の拡充に向け、官庁、民間受注における従前の事業展開を図るとともに、景観・環境分野の拡充ならびに技術力による提案営業の強化などに取り組んでおります。また、収益基盤の改善を目指し、受注の増勢に対応できる施工管理の一層の強化、及び新年度から開始した経営管理システムの全面的な活用による業務の効率化ならびに内部統制システムの整備による適正な業務運営体制の推進などを展開しております。

株主各位におかれましては、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

中間貸借対照表

(平成19年9月30日現在)

(単位：千円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産	18,844,874	流動負債	20,511,253
現金預金	3,060,324	支払手形	3,751,734
受取手形	1,883,866	工事未払金	3,294,653
完成工事未収入金	2,849,408	短期借入金	7,370,000
売掛金	1,178,030	一年以内返済予定長期借入金	451,478
未成工事支出金	8,603,787	未払金	40,771
販売用不動産	102,005	未払法人費用	95,809
材料貯蔵品	285,448	未払法人税等	39,456
短期貸付金	66,508	未成工事受入金	4,662,132
前払費用	92,236	仮受消費税等	508,450
仮払消費税等	782,306	預り金	166,169
その他流動資産	121,945	賞与引当金	100,000
貸倒引当金	180,996	完成工事補償引当金	23,066
固定資産	10,318,716	工事損失引当金	7,532
有形固定資産	8,788,289	固定負債	5,101,581
建物及び構築物	1,726,383	長期借入金	680,000
機械装置及び車両	572,131	長期未払金	102,892
工具器具及び備品	53,718	繰延税金負債	167,906
土地	6,434,792	再評価に係る繰延税金負債	1,287,005
建設仮勘定	1,263	退職給付引当金	2,863,775
無形固定資産	57,623	負債合計	25,612,834
ソフトウェア	24,013	(純資産の部)	
その他	33,609	株主資本	1,830,440
投資その他の資産	1,472,803	資本金	1,751,500
投資有価証券	970,000	資本剰余金	869,602
関係会社株式	139,391	資本準備金	600,000
関係会社出資金	140,638	その他資本剰余金	269,602
長期貸付金	114,075	利益剰余金	787,785
更生等債権	277,718	その他利益剰余金	787,785
その他投資	204,331	繰越利益剰余金	787,785
貸倒引当金	299,352	自己株式	2,877
関係会社投資損失引当金	74,000	評価・換算差額等	1,720,315
資産合計	29,163,590	その他有価証券評価差額金	134,215
		土地再評価差額金	1,586,100
		純資産合計	3,550,755
		負債・純資産合計	29,163,590

中間損益計算書

(平成19年4月1日から
平成19年9月30日まで)

(単位：千円)

科 目	金	額
売 上 高		9,767,984
完 成 工 事 高	7,727,662	
製 品 等 売 上 高	2,040,321	
売 上 原 価		9,367,237
完 成 工 事 原 価	7,324,936	
製 品 等 売 上 原 価	2,042,300	
売 上 総 利 益		400,746
完 成 工 事 総 利 益	402,725	
製 品 等 売 上 総 損 失	1,978	
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費		1,079,655
営 業 損 失		678,908
営 業 外 収 益		31,624
受 取 利 息 配 当 金	17,992	
そ の 他	13,632	
営 業 外 費 用		104,874
支 払 利 息	104,234	
そ の 他	639	
経 常 損 失		752,158
特 別 利 益		2,707
特 別 損 失	2,707	
固 定 資 産 売 却 益		13,447
固 定 資 産 廃 却 損	692	
固 定 資 産 売 却 損	4,477	
関 係 会 社 投 資 損 失 引 当 金 繰 入 額	7,791	
そ の 他	484	
税 引 前 中 間 純 損 失		762,897
法 人 税 、 住 民 税 及 び 事 業 税		24,887
中 間 純 損 失		787,785

中間株主資本等変動計算書

(平成19年4月1日から
平成19年9月30日まで)

(単位：千円)

	資本金	資本剰余金			利益剰余金
		資本準備金	その他 資本剰余金	資本剰余金 合計	その他利益 剰余金 繰越利益 剰余金
平成19年3月31日残高	1,751,500	600,000	526,182	1,126,182	256,580
中間会計期間中の変動額					
その他資本剰余金の取崩			256,580	256,580	256,580
中間純損失					787,785
株主資本以外の項目の 中間会計期間中の変動額 (純額)					
中間会計期間中の変動額合計			256,580	256,580	531,205
平成19年9月30日残高	1,751,500	600,000	269,602	869,602	787,785

	自己株式	株主資本合計
平成19年3月31日残高	2,877	2,618,225
中間会計期間中の変動額		
その他資本剰余金の取崩		
中間純損失		787,785
株主資本以外の項目の 中間会計期間中の変動額 (純額)		
中間会計期間中の変動額合計		787,785
平成19年9月30日残高	2,877	1,830,440

	評価・換算差額等			純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	土地再評価 差額金	評価・換算 差額等合計	
平成19年3月31日残高	311,149	1,586,100	1,897,249	4,515,475
中間会計期間中の変動額				
その他資本剰余金の取崩				
中間純損失				787,785
株主資本以外の項目の 中間会計期間中の変動額 (純額)	176,934		176,934	176,934
中間会計期間中の変動額合計	176,934		176,934	964,719
平成19年9月30日残高	134,215	1,586,100	1,720,315	3,550,755

中間財務諸表作成の基本となる重要な事項

1. 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

子会社株式及び関連会社株式 …… 移動平均法による原価法

その他有価証券

時価のあるもの …… 中間決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

時価のないもの …… 移動平均法による原価法

(2) たな卸資産の評価基準及び評価方法

未成工事支出金 …… 個別法による原価法

販売用不動産 …… 個別法による原価法

材料貯蔵品 …… 移動平均法による原価法

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産

定率法。ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（附属設備を除く）は定額法。なお、耐用年数及び残存価額については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっております。

(2) 無形固定資産

定額法。ただし、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法。

3. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

売上債権、貸付金等の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 完成工事補償引当金

完成工事に係るかし担保の費用に備えるため、当中間期末に至る1年間の完成工事高に対する将来の見積補償額に基づいて計上する方法によっております。

(3) 賞与引当金

従業員の賞与支給に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。

(4) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当中間期末において発生していると認められる額を計上しております。

(5) 関係会社投資損失引当金

投資先への投資により発生の見込まれる損失に備えるため、投資先の資産内容等検討して計上しております。

(6) 工事損失引当金

未成工事のうち損失が見込まれる工事に付き、その損失見込額を計上しております。

4. 完成工事高の計上基準

完成工事高は、工事完成基準によって計上しております。

5. 重要なリース取引の処理方法

リース物件の所有権が借主に転移すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

6. ヘッジ会計の方法

(1) ヘッジ会計の方法

特例処理の要件をみたす金利スワップについては、特例処理を採用しております。

(2) ヘッジ手段とヘッジ対象

金利スワップにより、借入金の金利変動リスクをヘッジしております。

(3) ヘッジ方針

経理部が、借入金の金利変動リスクを回避する目的で一元管理しております。

(4) ヘッジ有効性評価の方法

特例処理によっている金利スワップについては、有効性の評価を省略しております。

7. 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税に相当する額の会計処理は、税抜方式によっております。

会計方針の変更

(有形固定資産の減価償却の方法)

法人税法の改正（所得税法等の一部を改正する法律 平成19年3月30日 法律第6号）及び（法人税法施行令の一部を改正する政令 平成19年3月30日 政令第83号）に伴い、平成19年4月1日以降に取得したのものについては、改正後の法人税法に基づく方法に変更しております。

なお、この変更に伴う損益に与える影響は軽微であります。

中間貸借対照表の注記

1. 有形固定資産の減価償却累計額		12,152,161千円
2. 関係会社に対する金銭債権債務	短期金銭債権	181,309千円
	長期金銭債権	13,516千円
	短期金銭債務	21,582千円
3. リース契約により使用している固定資産		
	機械、車両運搬具及び電子計算機ならびに周辺機器一式ほか	
4. 担保に供している資産	受取手形	65,000千円
	建物	1,060,219千円
	土地	5,146,751千円
	投資有価証券	656,588千円
5. 保証債務		92,033千円
6. 中間期末日満期手形		
	中間期末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。なお、当中間期末日が金融機関の休日であったため、次の中間期末日満期手形が当中間期末残高に含まれております。	
	受取手形	114,503千円

中間損益計算書の注記

1. 関係会社に対する完成工事高	73,814千円
2. 関係会社に対する製品等売上高	88,895千円
3. 完成工事原価のうち関係会社からの仕入高	67,011千円
4. 当社の売上高は、通常の事業の形態として、上半期に比べ下半期に完成する工事の割合が大きいため、事業年度の上半期の売上高と下半期の売上高との間に著しい相違があり、上半期と下半期の業績に季節的変動があります。	

記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

重要な後発事象

(重要な資産の譲渡)

当社は、平成19年10月31日開催の取締役会において、次のとおり固定資産の譲渡を決議し、同年10月31日付で契約を締結しました。

なお、物件引渡は平成20年3月31日を予定しております。

(1) 譲渡の理由

当社は、当年度より3ヶ年の中期事業計画を推進しており、その一環として遊休資産の売却による有利子負債の圧縮を図るためであります。

(2) 譲渡資産の内容

資産の内容	土地(駐車場)
所在地	東京都港区南麻布一丁目1番71他
譲渡価格	2,560百万円
譲渡先	株式会社長谷工コーポレーション
資産の内容	土地(駐車場)・建物
所在地	神奈川県横浜市港北区新羽町字中窪896番1他
譲渡価格	754百万円
譲渡先	株式会社マルナカ

(3) 損益に与える影響

平成20年3月期の損益計算書において、2,334百万円を特別利益に計上する見込みであります。

中間連結貸借対照表

(平成19年9月30日現在)

(単位：千円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産	19,207,620	流動負債	20,832,094
現金預金	3,217,262	支払手形	3,845,765
受取手形	1,854,331	工事未払金	3,361,799
完成工事未収入金	2,925,478	短期借入金	7,387,295
売掛金	1,160,356	一年以内返済予定長期借入金	475,574
未成工事支出金	8,772,158	未払金	47,760
たな卸資産	391,462	未払費用	100,541
短期貸付金	51,885	未払法人税等	42,661
前払費用	92,377	仮受消費税等	527,095
繰延税金資産	888	未成工事受入金	4,744,317
仮払消費税等	806,792	預り金	166,807
その他	117,223	賞与引当金	100,850
貸倒引当金	182,595	完成工事補償引当金	24,094
固定資産	10,372,310	工事損失引当金	7,532
有形固定資産	8,914,017	固定負債	5,175,518
建物及び構築物	6,184,288	長期借入金	738,970
機械装置及び車両	7,836,765	長期未払金	102,892
工具器具及び備品	661,643	長期繰延税金負債	167,906
土地	6,520,826	再評価に係る繰延税金負債	1,287,005
建設仮勘定	1,263	退職給付引当金	2,878,743
減価償却累計額	12,290,770	負債合計	26,007,613
無形固定資産	58,340	(純資産の部)	
ソフトウェア	24,013	株主資本	1,833,288
その他	34,327	資本金	1,751,500
投資その他の資産	1,399,952	資本剰余金	869,602
投資有価証券	1,004,392	利益剰余金	784,936
長期貸付金	114,925	自己株式	2,877
長期前払費用	5,941	評価・換算差額等	1,717,821
更生等債権	296,565	その他有価証券評価差額金	134,215
その他	296,016	土地再評価差額金	1,586,100
貸倒引当金	317,889	為替換算調整勘定	2,494
資産合計	29,579,930	少数株主持分	21,207
		純資産合計	3,572,317
		負債・純資産合計	29,579,930

中間連結損益計算書

(平成19年4月1日から
平成19年9月30日まで)

(単位：千円)

科 目	金 額	
売 上 高		9,948,449
売 上 原 価		9,508,305
売 上 総 利 益		440,144
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費		1,147,880
営 業 損 失		707,735
営 業 外 収 益		
受 取 利 息 及 び 配 当 金	18,054	
そ の 他 営 業 外 収 益	18,116	36,171
営 業 外 費 用		
支 払 利 息	106,161	
そ の 他 営 業 外 費 用	761	106,922
経 常 損 失		778,486
特 別 利 益		
固 定 資 産 売 却 益	3,326	
そ の 他 特 別 利 益	205	3,532
特 別 損 失		
固 定 資 産 廃 却 損	692	
固 定 資 産 売 却 損	4,477	
そ の 他 特 別 損 失	484	5,655
税 金 等 調 整 前 中 間 純 損 失		780,609
法 人 税 、 住 民 税 及 び 事 業 税		28,009
少 数 株 主 利 益		128
中 間 純 損 失		808,748

中間連結株主資本等変動計算書

(平成19年4月1日から
平成19年9月30日まで)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
平成19年3月31日残高	1,751,500	1,126,182	232,768	2,877	2,642,037
中間連結会計期間中の変動額					
その他資本剰余金の取崩		256,580	256,580		
中間純損失			808,748		808,748
株主資本以外の項目の中間連結会計期間中の変動額(純額)					
中間連結会計期間中の変動額合計		256,580	552,168		808,748
平成19年9月30日残高	1,751,500	869,602	784,936	2,877	1,833,288

	評価・換算差額等				少数株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	土地再評価差額金	為替換算調整勘定	評価・換算差額等合計		
平成19年3月31日残高	311,149	1,586,100	831	1,896,418	23,309	4,561,764
中間連結会計期間中の変動額						
その他資本剰余金の取崩						
中間純損失						808,748
株主資本以外の項目の中間連結会計期間中の変動額(純額)	176,934		1,662	178,597	2,101	180,699
中間連結会計期間中の変動額合計	176,934		1,662	178,597	2,101	989,447
平成19年9月30日残高	134,215	1,586,100	2,494	1,717,821	21,207	3,572,317

株 主 メ モ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月に開催いたします。
基準日	定時株主総会の議決権 3月31日
	期末配当 3月31日
	中間配当 9月30日
	その他必要がある場合は、あらかじめ 公告する一定の日
単元株式数	1,000株
公告方法	日本経済新聞に掲載いたします。 なお、当社の貸借対照表ならびに損益計算書は、EDINET（金融商品取引法に基づく 有価証券報告書等の開示書類に関する電子 開示システム）にて開示しております。
株主名簿管理人	大阪市中央区北浜二丁目4番6号 株式会社だいこう証券ビジネス
同事務取扱場所	東京都中央区日本橋兜町14番9号 株式会社だいこう証券ビジネス東京支社
同 取 次 所	株式会社だいこう証券ビジネス 本社及び各支社

【郵便物送付先】

〒541 8583 大阪市中央区北浜二丁目4番6号

株式会社だいこう証券ビジネス 証券代行事務センター

【各種お問合せ先】

株式事務に関するご照会

電話 0120 - 255 - 100（フリーコール）

株式関係手続用紙ご請求

電話 0120 - 351 - 465（フリーコール）

WEBサイト <http://www.daiko-sb.co.jp/>